

「ライデン大学／ハイデルベルク大学院生交流プログラム参加報告書」

京都大学法学部2年 改森 実奈

- ① 今回の派遣ではオランダのエラスムス大学、ワーヘニゲン大学、ドイツのゲーテ大学、ハイデルベルク大学の四つの大学にて、ワークショップに参加した。各々のワークショップは、現地の大学によって周到な準備がなされたものであり、双方の学生の興味深いプレゼンテーション、それについてのディスカッションを通して、国際理解を深められたと思う。普段学部での講義の中では触れられない内容が大半であったので、元来関心の強かった経済に関する内容を学ぶ良い機会であったと同時に、自分の興味関心を広げることもできたので、これからの大学での学習についても、新たな意欲を持つことにつながった。元来海外留学には興味があり、実際今年度からアメリカの大学に留学する予定であったが、四つの大学を訪れ、充実した大学施設や現地の学生の強い探究心にふれることで、留学に対するモチベーションも上がった。また、私以外の参加者が大学院生であったことから、大学院での学びについて知る良い機会となり、大学院進学、また海外の大学院留学も一つの進路として考えるようになり、選択肢を良い意味で広げられたと思う。
- ② 初めてのヨーロッパ訪問であったので、新鮮なことが多かった。日本より充実した公共図書館や、日本と異なる交通システムも日本と比較することで、日本はどうあるべきか考えるなど、参考になった。オランダ、ドイツ共にヨーロッパの長き歴史を色濃く残した街並みを有していて、訪れた多くの博物館、美術館からもそれぞれ充実した学びがあった。引率していただいた先生の現地のご友人とお話しさせていただくことから、オランダ、ドイツの実像を知る上で大変示唆に富むものであった。このように様々な方法で新しい文化に触れることで、自分の視野が以前より広げられたと感じる。
- ③ オランダ、ドイツ共に、非常に充実した毎日を送れた。四つの大学でのワークショップでは、すべての相手方の大学が十分な準備をしてくれていたおかげもあって、学び多き内容となった。またいくつもの企業訪問の中で最も印象深いのは、ドイツで最も力を持つ労働組合、IG Metal へのインタビューである。担当してくれた方が、とても親切に、事前に送られた質問に対して資料などと共に十分な準備をしてくれていた。そのために、ドイツの労働組合、労働争議、労働状況の実態について深く学ぶことができた。また、引率していただいた先生のご友人であるゲーテ大学講師の方も参加され、彼女の専門が女性労働の国際比較だったので、女性の労働状況に強い関心のある私にとって、彼女の質問を通してインタビューがより充実したものになった。プログラムの充実は、訪問先の現地の大学、企業の十分な準備と、引率していただいた先生方のコネクションによるものだと思う。
- ④ 現在私は学部二回生で、進路を決めかねている状況であるが、今回の参加は、大学院へ進学して研究をするということを視野にいれて考えるきっかけとなった。上記でも述べたように、私以外の参加者は皆大学院の博士課程、修士課程に在籍しておられる方ばかりで、普段あまりそのような方と接する機会もなかった私にとっては、このプログラム全体が、大学院で学ぶということはどういうことかを知る良い機会となった。京都大学また現地の大学の学生によるプレゼンテーションも、各々の研究の仕方や内容を知ることが出来、大学院進学がまた魅力的に感じた。今まであまり大学院進学を考えてこなかった私にとって大きな変化であるし、また、海外の大学で勉強することもまた同じく惹かれたので、進路の選択肢が自分の中で広がったと思う。